

# 書評

麻野 浅一 著 (社)日本監査役協会理事  
『監査役のための 会計の基礎知識』

## 志が素晴らしい

監査役にやさしい会計の基礎知識をもってもらいたいという麻野さんの気持は、この本に十分に表われています。しかも、麻野さんが、日本の生きた経営実務の中で体得された「監査役の仕事の重み」を開陳されておられるところが素晴らしいのです。

近時、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス（法律遵守）、委員会等設置会社の監査委員会などという、会社を性悪説の震源地であるとするかのような議論が多くなされていて、とても残念です。

私は会社性善説のもとに、全国250万社について「会社の目的は1円でも利益をあげ40銭の税金を納める（憲法上の納税義務）ことである」と考えています。会社は利益がなければ税金も認められないのです。実際、250万社のうち、半数の会社は赤字です。それだけに、会社の利益の増大をめざす仕事をされてきた、販売・製造・研究などの分野から監査役になる方が多いのを、私は望ましいと考えています。この方々は、会社が、すべてのコストをまかなつたあとに1円の利益を上げるのは、いかに大変なことであるかを、体と心の両方でよく知っているからです。この方々が会計の事を知らないのは、恥でもなんでもないのです。このような監査役の方々に、会計の基礎知識を学んではほしいという麻野さんのお考えには、高い志があると感じています。

## 監査役のための 会計の基礎知識

麻野 浅一 (著)



税務経理協会

A5判・並製 総頁216頁  
定価 1,995円(本体1,900円)  
税務経理協会 刊

今の監査役の方々の声をしっかり聞いて、本書は書かれている

麻野さんは、日本監査役協会などで、多数の監査役さんと接触し、その方々の会計監査に困惑した姿を見てこられました。

監査役協会に所属する監査役の75%は、経理・財務部門の勤務経験のない方々で、そのうちの多くの方が次のように申されています。

- ・「営業のことなら自信があるんだけど」
- ・「技術・生産なら経験豊富だけれど」
- ・「会計のことは専門的すぎてさっぱり判らない」
- ・「勉強しようと思って書店に行つても、入門書から専門書までずらりと並んでいて、監査役としてどれを読んだらよいか判断できない」

以上のような「会社の目的や、利益をめざす生きた事業の内容が判っている方々」が、監査役になつて、本書に書かれているような会計基礎知識を学ぶことがよいと、私は常々考えてきました。まさに、本書はこのような方々に打って付けです。

## 会計監査の義務を放棄しないために

監査役は知識・能力の有無にかかわらず、就任した日から高いレベルの監査を要求されます。しかも、ゆっくり腰を落ちさせて基礎から勉強している時間はありません。本書はこれらの方々のために、監査役が会計監査について習得すべき会計の基礎知識を分かりやすく伝え（第1～3章）、しかも監査実務にすぐに役立つこと（第3～5章）を意図して書かれています。

監査役の方々の中には、簿記（Book-Keeping）の元帳（Ledger）と貸借対照表・損益計算書とを照合するだけで会計監査を済ませたり、会計監査人（公認会計士・監査法人）に全部委ねて、監査報告書だけを日本監査役協会のひな型通りに書くという方もおられます。

このような方々が、会計を難しく考えすぎたり、勉強の仕方が分からなくて、はじめから会計監査の義務を放棄しないようにするために、本書はとても役に立つと、私は確信します。

金児昭から全国の社長さんへのお願ひ

最後にこの場で、全国250万社すべての会社の社長さんにお願いがあります。「日本の監査役さんの仕事を理解し、監査役の方々を会社経営のために大事にしていただきたい」と、お願ひ申し上げます。

これなくしては、「日本の会社法で認められる監査役に魂を入れることができない」からです。

早稲田大学大学院客員教授 かねこ あきら  
評者：前金融監督庁（現金融庁）顧問 金児 昭  
元公認会計士試験・試験委員